

指導例 2

SNS教育プログラム レッスン1 学習指導案

1 単元名 適切なコミュニケーションを考える

2 本時のねらい

他者と自分との考え方や感じ方には違い（ズレ）があることに気付き、その違いを踏まえたコミュニケーションが大切であることを理解する。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10 分)	<スライド 1、2、3、4> ・ 本時の流れを確認する。 ・ 班分け、各班での役割(進行、発表係)決めを行う。 <スライド 5、6>	・ 全プログラム 3 回のうちの 1 回目であるため、【はじめに】を読み、当該プログラムの目的を理解する。 ・ 1 班 5 ～ 6 人程度（少ないと違いが明確に表れない。）
	アイスブレーキング（グループ活動による） Q「夜遅い時間といえは何時？」	・ 時間の捉え方にも違い(ズレ)があることを理解する。SNS 利用にも関連づけながら、夜遅くまで利用する際の時間の捉え方に気づかせるとよい。
展開 (30 分)	ワークシート、無地のカードを配付する	・ グループ活動のルール（4 つの約束）を説明し、他の班員の意見を否定、批判せずに受容することを確認する。
	発問 1：言われて嫌な言葉を選びましょう。また、その理由を考えましょう。	・ それぞれ異なる言葉が書かれている 5 枚のカードを配付する。
	・ 各自で言われて嫌な言葉を選ぶ。その後、グループやクラスで他の生徒の考えとの違いを確認する。 ・ 言われて嫌な言葉等が、それぞれ違うことを理解し、友人との感覚のズレを自覚する。	・ 発表させた後、クラス全体を集約し、感覚のズレに気付かせる。 ・ 感覚のズレに気付かないままテキストコミュニケーションを続けることが、トラブルにつながることに気付かせる。

指導例 2

	<スライド 7、8> 発問 2:「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）」の違いを考えてみましょう。 ・ワークシートに違いを書く。 ・SNS 上のコミュニケーションではどのようなことに注意しなければならないかを考える。 ・「テキストコミュニケーション」の特性についてグループ内で発表し合い、ワークシートに記述する。 ・グループ内で考えを共有する。 発表係は結果を発表する。 <予想される生徒の記述> ・誰とでもつながる ・一瞬で伝わる ・真意が伝わらず誤解されることもある ・データが残る ・画像などを使える 等々 <スライド 9> 「メラビアンの法則」について説明する。 (コミュニケーションは言語情報だけでなく、非言語情報も非常に重要である。 「何を言うか」も大事だが、それを「どう言うか」「どういう態度で」ということはさらに重要であると確認する。)	・「直接コミュニケーション」と「テキストコミュニケーション」について説明し、SNS 上のコミュニケーションはテキストコミュニケーションであることを確認する。 ・それぞれのコミュニケーションのメリット、デメリットを考えることで違いが明確になることを説明する。 ※生徒の発言は、板書する ・コミュニケーションは言語情報だけでなく、非言語情報(表情やしぐさ、声のトーンや大きさ等)も非常に重要であることに気付かせる。 ・個人個人で感じ方の違い(ズレ)があることに加え、テキストコミュニケーションは直接コミュニケーションよりもトラブルが起きやすい要素が多いことを説明する。
まとめ (10 分)	<スライド 10> ワーク①、ワーク②を通して、 ・他者と自分との考え方や感じ方には違い(ズレ)があること。 ・テキストコミュニケーションは直接コミュニケーションよりも誤解が生じやすくトラブルになる要素が多いことを確認する。	・SNS 上のコミュニケーションでは、ネットの特性を理解し、更に自分の言動がどんな結果をもたらすかを想像し、適切に判断できる力を養うことが重要であることを理解させる。

指導例 2

5 実践するにあたって

(1) 概要

①言われて嫌な言葉やされて嫌なことが自分と必ずしも同じではないことを体験させ、「感覚のズレ」がSNS等を利用して起こるトラブルの一因であることを理解させる。

②ネットでのコミュニケーションはテキストコミュニケーションがほとんどであり、「メラビアンの法則」を紹介し、通常のコミュニケーションとの違いを理解させる。

○ テキストコミュニケーション

・・・文字のみによるコミュニケーション

○ メラビアンの法則

・・・感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたとき、人の受けとめ方に及ぼす影響の大きさについての実験結果。話の内容などの言語情報が7%、口調や話の早さなどの聴覚情報が38%、見た目などの視覚情報が55%の割合であった。

(2) 基本的なスタンス

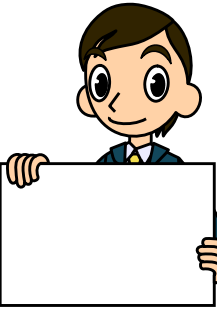
- ・ SNS教育プログラムでは、機械技術、利用技術、法律等を教えるのではなく、コミュニケーション指導が中心であるという共通認識をもって実施する。
- ・ SNSやスマートフォンを使わせないということを前提としない。
- ・ 「感覚のズレ」という言葉をキーワードとして用いる。

(3) 工夫するとよい点

- ・ 「言われて嫌な言葉」については、挙手をすることで、「感覚のズレ」を視覚的に伝えることになる。ただし、その際、少数意見へのフォローが大切である。
- ・ SNSを活用するうえで、安全性を高めるために注意することについては、次の点が考えられたかを確認する。
 - ・ 投稿により自分自身が伝わるものである。
 - ・ SNSやインターネットの技術が進化する中では、リスク等は想像を超える場合もある。
 - ・ 生徒によってSNSの使い方が異なり、それがトラブルの元にもなり得る。
- ・ 分からせることよりも実感させることが大切。教え込もうとしなくてもよい。
- ・ SNSやインターネットで困っていることがあれば、相談に乗ることを伝え、一緒に考えていく姿勢を伝える。
- ・ SNSに関して保護者とどのように話をしてきたかを確認してもよい。

「適切なコミュニケーションを考える」ワークシート

年 組 番 氏名



【グループワークの進め方】

- ① 5～6人程度のグループを作る
- ② 進行係、発表係を決める
- ③ 左の絵のボードに役割（進行・発表）を記入する

【ワーク①】

Q あなたが、クラスの友だちから直接言われて「いやだな」と感じる言葉を一つ選んでカードにその言葉を書いてください。

① _____人
まじめだね

② _____人
おとなしいね

③ _____人
一生懸命だね

④ _____人
個性的だね

⑤ _____人
マイペースだね

① 「いやだな」と感じる理由を書きましょう。

その理由

- ② 進行係のかけ声で、全員一斉にカードを提示する。
- ③ 一人ずつ、選んだ理由を発表する。
- ④ 進行係は、班の意見を集計し、発表係は結果を発表する。
- ⑤ クラス全体を集計し、ワークシートのカードに記入しましょう。

【ワーク②】

Q 「対面での直接コミュニケーション」と「ネット上のコミュニケーション（テキストコミュニケーション）」の違いを考えてみましょう。
どちらかに○をつけてください。

違いがある ・ 違いがない

その理由

※それぞれのメリット、デメリットから違いを考えてみましょう。

〈対面での直接コミュニケーション〉

メリット

- ・
- ・
- ・
- ・

デメリット

- ・
- ・
- ・
- ・

〈ネット上のテキストコミュニケーション〉

メリット

- ・
- ・
- ・
- ・

デメリット

- ・
- ・
- ・
- ・

【まとめ】 今日の授業の感想